



# スルメイカ

## 冬季発生群

主な漁業と漁期

定置網: 周年  
釣: 5月～翌年2月

## 生態

スルメイカは日本各地に分布し、発生時期の異なる冬季発生群と秋季発生群が生息し、太平洋側では主に冬季発生群が漁獲の対象となっております。本種の幼体は本州以南の暖水域に分布し、黒潮によって北方冷水域へ移送されながら成長し、また、成熟が進むにつれ北方から南方暖水域に回遊すると考えられています。

### ●産卵場・産卵期

冬季発生群: 主に東シナ海で1～3月  
秋季発生群: 北陸沿岸～東シナ海で10～12月に産卵が行われます。

### ●食性

動物プランクトン、小型魚類、イカ類などを捕食します。

### ●成長・成熟

寿命は1年程度です。メスはオスに比べて体が大きくなり、オスでは9ヶ月程、メスでは10ヶ月程で成熟します。また、初夏に漁獲される外套背長20cm以下の小型個体はムギイカなどと呼ばれています。

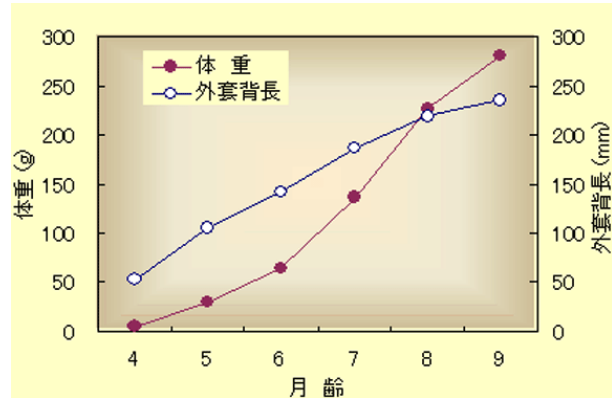
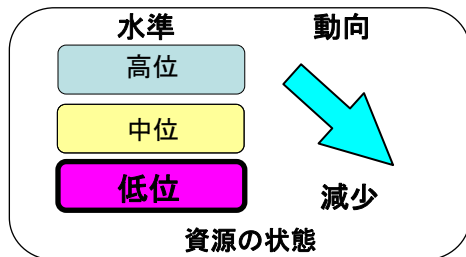


図 月齢と成長 ((国研)水産研究・教育機構資料)

## 漁業・資源動向

### 【資源】



- 1 冬季発生群の資源量は1989年以降増加し、その後、約50万～100万トンの水準で推移しましたが、2015年以降減少に転じました。
- 2 2019年の資源量は14.4万トンで、資源水準は低位、動向は減少傾向であると評価されています。
- 3 現在の親魚量はBlimit(それ未満では良好な加入が期待できない資源量または産卵親魚量)を下回っており、親魚量をBlimit以上の水準に回復させることが管理方策として提案されています。

国の資源評価へのリンクはこちら  
ダイジェスト版

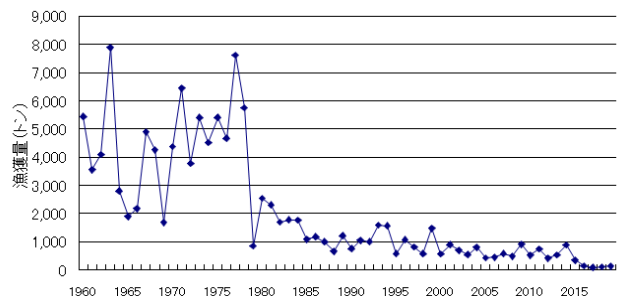
[http://abchan.job.affrc.go.jp/digests2019/html/2019\\_18.html](http://abchan.job.affrc.go.jp/digests2019/html/2019_18.html)

詳細版

<http://abchan.job.affrc.go.jp/digests2019/details/201918.pdf>

### 【漁業】

- 1 静岡県では主に定置網や釣りによって漁獲されています。
- 2 定置網は盛漁期が冬で、主漁場は伊豆半島東岸、主に産卵南下回遊中の群れを漁獲します。釣りは盛漁期が夏で、主漁場は駿河湾～石廊崎周辺、幼体時に本県沿岸域に補給され、そこで成長した群れを漁獲します。
- 3 県内の漁獲量は1977年以降、大きく減少しました。それ以降も漁獲量は減少傾向にあり、近年では100トン前後の低水準で推移しています。



静岡県のスルメイカ水揚量の推移

担当者の一言: イカ類の中でも中腸腺(ワタ)が豊富で美味です。細かく刻んで刺身に付けたり、肝炒めにしても◎

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場 0558-22-0835